

韓国・労働社会科学研究所からの連帯メッセージ

ロシア十月社会主義革命103周年東京集会に連帯して 歴史の歯車を前に転がすため韓日活動家たちはさらにもっと連帯を

コロナ19によるパンデミックのなかでも、元気に活動しておられる日本の同志のみなさん、こんにちは。

韓国は騒々しくK-防疫（新型コロナウイルス感染症の封じ込めに成功した韓国政府・保健福祉部の手法を指す用語）を宣伝していますが、その裏では新しい世の中をつくり出そうとする労働者・民衆の闘いが「防疫措置」によって足首をつかまれています。そのため、全泰壹烈士焼身抗議50周年を迎える労働者大会さえ一か所に集中して開催することができず、地域別の拠点で行なわれる予定です。文在寅政権が押しつけている労働法改悪の動きに対抗しながらも、立派な集会を組織するのは困難な状況です。この渦中であって、韓国労働者階級の最大の大衆組織である民主労総、民主労総地域本部、主要産業別労働組合の役員選挙がいま行なわれています。

考えてみれば、103年前に資本主義も十分に発達しておらず、工業国というよりは農業国に近かったロシアで偉大な社会主義革命が起こり、その結果、人類は階級と搾取を廃止する新たな歴史を開拓する経験をしました。それでも、「ソ連は社会主義ではなかった」という超革命的言辭を派手に飾り立てたたゞらめな主張が、20世紀社会主義体制が解体されて以降、一部で政治的・理論的潮流を形成している現実が、とても憂慮されます。

十月革命はつきつめれば、ラッドイト運動から出発して労働組合運動・チャーチスト運動・パリコミュンなどをへて科学的社会主義で武装した全世界の労働者階級の闘争の経験が積もり積もって、ロシアという地域で噴出した革命ではありませんか？ 十月革命に先立つ二月革命は事実上、国際婦人デーの日にストライキで打って出たロシア女性労働者たちの闘争が点火した革命でした。ならば、直接的には女性労働者の普通選挙権と賃金上げを要求した米国の繊維労働者たちの闘争が国際婦人デーの発端でしたが、二月革命はこの繊維労働者たちの闘争を契機に国際婦人デーを提案し実践したクララ・ツェトキンとアレクサンドラ・コロンタイのような女性革命家たちが米国とヨーロッパをまわって活動したことの結果ではありませんか？

科学的社会主義の創始者であるマルクスとエンゲルスは、労働者階級の国際的団結のために、当時の歴史的諸事件を分析して理論化しながら、現実の運動の実践的原則を提示しました。このような思想と理論の継承がなかったならば、レーニンがどうしてロシア革命を指導することができたのでしょうか？

十月革命とその成功によってつくられたソビエト社会に対する科学的な評価とその大衆

化が喫緊の課題です。そのようにしてこそ、科学技術革命の飛躍的展開にともなう資本主義的生産体制の矛盾の激化にもかかわらず、20世紀社会主義世界体制の解体以降、深化しているこの反動の時代を克服して、21世紀社会主義にむかって前進することができるからです。蔓延する敗北主義と清算主義を克服し、歴史の歯車を前に転がすために、韓国と日本の活動家たちがさらにもっと連帯することを期待します。

2020年11月4日

ソウルから

労働社会科学研究所 運営委員会

【翻訳・土松克典】